

第7章 専門委員会で選定した候補地

7.1 評価結果に基づく候補地の選定

評価結果に基づき、専門委員会で検討を行った結果、候補地①（長野市中条日高：入日）及び候補地⑥（飯綱町地蔵久保）を選定した。

表 7-1 評価結果

区分	評価の項目	候補地①	候補地②	候補地③	候補地④	候補地⑤	候補地⑥
		長野市中条日高 (入日)	長野市中条日高 (びわ島)	長野市中条 (専納～大塩)	信濃町 野尻高沢	小川村 高府 (梶尾)	飯綱町 地蔵久保
土地条件	土地利用	B	B	A	B	A	B
	土地所有	C	A	A	A	B	B
自然条件	地形の状況	C	B	C	C	B	A
	地質の状況	C	C	C	C	C	C
	流域面積	A	C	C	B	C	A
	希少動植物の確認状況	C	B	B	C	C	C
	自然の改変度	C	B	C	C	C	C
環境条件	水源への影響	A	A	A	A	A	A
	放流先の状況	B	A	B	C	C	B
	生活環境への影響	B	C	C	C	B	B
	沿道への影響	A	A	A	B	C	C
建設条件	防災に係る法規制	B	B	C	B	B	A
	農用地区域の該当状況	C	C	C	C	C	C
運搬条件	運搬効率	A	A	A	C	C	A
	積雪の状況	A	A	A	C	A	B
施設配置計画	土量バランス	C	B	B	B	A	A
	建設工事の規模	B	A	B	A	B	C
	立地特色・防災対策	C	C	C	C	C	A
	処理水放流管等施設整備	A	A	B	C	C	C
	跡地の有効利用	C	C	A	A	A	A
経済条件	施設整備費・維持管理費	C	C	C	C	A	B

※太枠及び赤字は評価のポイント

7.2 選定理由

選定する際の評価のポイントとして、地形の状況、地質の状況、生活環境への影響、放流先の状況、防災に係る法規制、運搬効率、積雪の状況、立地特色・防災対策についての評価結果を重要視して検討を行った。

選定結果として、放流先が下水道放流であり、運搬効率の評価が優位であった候補地①及び放流先が下水道放流であり、防災上のリスクが低いことから候補地⑥を選定した。

表 7-2 選定結果

候補地	理由	選定する候補地
候補地①長野市中条日高（入日）	放流先が下水道放流であり、運搬効率を評価したことから選定	○
候補地②長野市中条日高（びわ島）	人工堆積物を含む不安定な地質状況かつ福祉施設や老人ホームが近隣にあることから非選定	
候補地③長野市中条（専納～大塩）	防災に係る法規制がかかり、防災上のリスクが高いことから非選定	
候補地④信濃町野尻高沢	運搬効率、積雪の状況、防災対策の評価が悪いことから非選定	
候補地⑤小川村高府（梶尾）	放流先が河川放流であり、運搬効率が悪いことから非選定	
候補地⑥飯綱町地蔵久保	放流先が下水道放流であり、防災上のリスクが低いことから選定	○

7.3 選定された候補地の特徴及び留意事項

7.3.1 候補地①長野市中条日高（入日）

(1) 土地条件

河川（土尻川）沿いの斜面地であり、一部、田や畑に利用されている。

(2) 自然条件

滑落崖を含む緩斜面は、空中写真判読から地すべり移動体の可能性が想定されるが、処分場を建設することによって地形変状によるリスクが解消または低減する。

(3) 環境条件

処理水の影響はなく、生活環境や生活道路への影響も少ない。

(4) 建設条件

地すべり危険箇所に該当し、農用地区域が含まれる。橋の新設が必要条件となる。

(5) 運搬条件

運搬効率は良く、積雪による運搬への影響も比較的少ない。

(6) 施設配置計画条件

土工量を減らすために処分場を斜面上に配置して、貯留構造物を擁壁構造とすることで土工量を減らす工夫をしているが、土量バランスが悪く、残土が多く発生する状況である。また建設工事の規模が大きく、洪水対策、斜面崩壊対策が必要となる。

(7) 経済条件

工事費が高いことから、今後の検討においては残土処分量の削減、処分場の配置検討を工夫することでコストダウンの検討を行う必要がある。

7.3.2 候補地⑥飯綱町地藏久保

(1) 土地条件

植栽林があり比較的手入れされている土地である。

(2) 自然条件

丘陵地形の尾根部に位置し、凹型斜面に崩壊地などの変状地形は確認されず安定している。流域面積が小さいため、防災上のリスクが少ないと考えられる。

(3) 環境条件

処理水の影響はなく、住宅街の道路を回避して搬入道路を新設するため、生活環境や生活道路への影響も少ない。

(4) 建設条件

防災に係る法規制に該当はなく、防災上のリスクが少ない。農用地区域が含まれる。

(5) 運搬条件

運搬効率は良く、積雪による運搬への影響も比較的少ない。

(6) 施設配置計画条件

処分場は尾根部に配置する計画であるが、隣接の沢部を残土処分地として利用することで、土量バランスが良い計画となっている。ただ建設工事の規模が大きく、土工量が大きくなるため、工事中は周辺への影響を考慮する必要がある。

(7) 経済条件

今後の検討においては処分場の配置検討を工夫することでコストダウンの検討を行う必要がある。